

トネル予定地に産廃

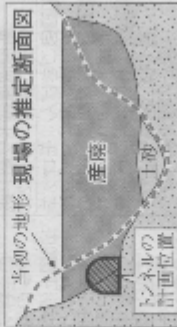
撤去方法 道路構造へ影響

岐阜市椿洞

岐阜市椿洞の産業廃棄物中間処理業者「産廃」による産廃の大量不法投棄現場に、国土交通省が計画する東海環状自動車道環状リートの一部が架かっている。建設現場は予想以上に大きな山が削り取られ、トンネル予定地の位置も産廃が埋まっていることが、岐阜市の調査で明らかになった。産廃の全面撤去、現地民営化など処理方法を検討するが、自動車道建設に影響するのは否か。――調査写真



現場には不法投棄として処分された約七十五万立方メートルの産廃が埋め込まれている。自動車道の計画ルートは、現場北側の山頂部をかきめと通り、大部分



継続的な撤去作業が行われた場合、産廃埋藏下のトンネル計画ルートに宅宅及びたし点開け、岐阜市椿洞と本社がりわがらるから

がトンネル。昨年三月の不法投棄事件発覚時、岐阜市は、もともと予り跡地だった現場の地形を利用して産廃が不法投棄された推定していた。しかし、産廃撤去をため、大

産廃埋藏箇所

西回りルートは岐阜市の西側、関ヶ原インターチェンジ（IC）と三重県の四日市北インターチェンジ（IC）の間。三重県内で工事が進んでいるが、岐阜県内は用地買収が一段と行われている段階。高回りルートは、愛知県豊田東インターチェンジの建設現場とICの間に今年三月に開通した愛知県ICと西側は、岐阜市に

不法投棄現場



く山の斜面が削り取られていたことが、ナリシンの調査から判明。山の中に掘る計画のトンネルの場所も削られ、産廃が埋め込まれていた。

国土交通省は「トンネルを掘る計画は、この部分まで産廃があるのか」とまで地形を突き詰めたが判断する材料が手元にない。まず、産廃を全面撤去する。トンネルになるはずだった一部が地上に出て、トンネルが短くなる。現場撤去や一部撤去なら、産廃の中を掘り進むことになる。掘削工事が難しくなることも予想される。国土交通省は「処理方法がまだあり、道路構造が決まらな

い。岐阜市の調査を待つしかない」と指摘し、早期着工を望んでいる。同中の計画ルートは、めぐるとは、今回の現場の約四・五、南側の御嶽山のトンネル計画地についても、地質がもろく崩壊の可能性がある。地質学を指摘しており、山のふもとに地元住民が反建運動を展開。田舎者は、住民や専門家と交える機会を設けて、現場ルートの変更を協議している。

2005. 5. 26 中日